

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第22回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

う蝕の科学

浜田 茂幸 先生

大阪大学名誉教授
日本大学大学院総合科学研究科教授

平成19年1月19日(金) 13:00～16:10
歯学部B1講義室(歯学部講義棟1階)

浜田茂幸先生に学部講義をお願いしました。私としては鹿児島大学・東北大学を通して始めてのことです。浜田先生は所謂「ミュータンス学」の創始者であり首魁(?)でした。最近では、う蝕細菌よりも化膿レンサ球菌の研究に軸を移しておられますが、浜田先生と云えば、なんと言ってもやはりミュータンスです。

先生は一昨年(平成17年)3月に停年を前にして、大阪大学を退職され、現在日本大学大学院総合科学研究科の教授をされています。仄聞するところでは、阪大時代とは違ってかなり時間的余裕がおりるようで、物書きをされているとの由です。そう言えば、最近、「新・う蝕の科学」(大嶋 隆先生との共編、医歯薬出版2006)を上梓されましたので、丁度良い機会と考えて学部講義をお願いした次第です。そんな訳で、ミュータンス学の創始者が自らその研究史を解説して下さることになると期待しています。是非、この機会に受講されることをお勧めします。

具体の研究業績は講義に譲り、この方面に限って、浜田先生の特記すべき事跡を私の独断で2～3挙げさせていただきます。

・Hamada, S., & H.D. Sladeの総説論文 "Biology, Immunology, and Cariogenicity of *Streptococcus mutans*" (*Microbiol. Rev.* 44:331-384, 1980)はミュータンス学の古典として、いまだに引用され続けています(2007年1月6日現在被引用件数は900を超えている)

・浜田茂幸著「虫歯はどうしてできるか」(岩波新書 黄版183; 1982)は私が学生に推薦し続けていますが、度々のアンコール復刊にも係わらず、現在は残念ながら絶版中。仕方ないので上記の「新・う蝕の科学」を読んで下さい。

・歯学部出身者として唯一の浅川賞(日本細菌学会の最高賞)受賞者(1996): 記念論文「ミュータンスレンサ球菌のビルレンス因子の解析と同因子の抑制」は日本細菌学雑誌に掲載(51:931-951, 1996)。(文責 高田春比古)

連絡先: 第22回モデレーター
研究推進企画室長
副研究科長

高田春比古(内線 8305)
高橋 信博(内線 8294)